

平成30年度 神戸薬科大学大学院薬学研究科 修士課程学生募集要項 [社会人特別選抜入試] (昼夜開講制コース)

1. アドミッションポリシー

神戸薬科大学の理念を理解し、大学院薬科学専攻修士課程の人材養成の目的に応えるような次のような人物の入学を希望します。

- 4年制の薬学部を卒業し、より高度な創薬科学、生命科学、あるいは臨床科学の専門的知識や研究能力を持つ薬科学研究者を目指す人物
- 薬学部以外の出身者で、それぞれの専門的知識に本学が有する創薬科学研究の知識・技術を融合させた薬科学研究者を目指す人物

2. 募集人員；5名（一般入学試験を含む）

3. 募集講座（裏面参照）

専攻	募集講座（研究分野）			
薬科学専攻	薬化学	医薬細胞生物学	薬品化学	生命有機化学
	薬品物理化学	機能性分子化学	生命分析化学	衛生化学
	微生物化学	生化学	病態生化学	薬剤学
	薬理学	製剤学	臨床薬学	医療薬学

4. 出願資格

社会人として1年以上（出願時点）の社会的経験を有する者、並びに、入学後、たばこを吸わないことを確約できる者で、かつ、次のいずれかの資格を有する者とする。

- 大学を卒業した者
- 外国において、学校教育における16年以上の教育を受けた者
- 文部科学大臣の指定した者
- 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- 本大学院において、(1)と同等以上の学力があると認められた者のうち入学時に満22才に達している者

5. 出願期間

平成30年2月19日（月）～3月2日（金）〔受付時間；土曜・日曜・祝日を除く平日の9時～17時〕〔郵送の場合は書留便にて締切日必着〕

6. 出願手続

入学志望者は、下記の書類等を大学に提出すること。

- 入学願書；神戸薬科大学所定の用紙
- 受験票；神戸薬科大学所定の用紙
- 調査書；又は成績証明書。出身大学において作成・厳封したもの。
- 卒業証明書；出身大学において作成したもの。
- 健康診断書；神戸薬科大学所定の用紙を使用し、願書受付日前3か月以内に受診したもの。
- 志望理由書；神戸薬科大学所定の用紙
- 実務実績書；神戸薬科大学所定の用紙
- 写真；願書受付日前3か月以内に撮影したものを願書に貼り付けること（脱帽・上半身・正面・縦4cm×横3cm）。
- 受験票送付用返信封筒；神戸薬科大学所定の封筒に宛先を明記（切手392円分（簡易書留料を含む）を貼り付けること。ただし、受験票を入試課窓口で受取る場合は切手不要）。
- 入学検定料；20,000円を納入すること（神戸薬科大学に直接納入、又は入試課宛て現金書留にて送付）。

7. 試験日・試験時間・試験科目・試験実施場所

試験日	試験時間	試験科目	試験実施場所
平成30年3月10日（土）	10時～11時30分	英語 ※一般的な英和及び和英辞典に限り持込みを許可する	神戸薬科大学
	13時～14時	小論文	
	14時30分～	面接	

8. 合格者発表

平成30年3月12日（月）15時 神戸薬科大学において合否を発表、通知する。

9. 入学手続

入学を許可された者は、指定期内に誓約書を提出しなければならない。

入学後も社会人として在職する場合は、指定期内に「就学承認書」を提出しなければならない。

指定期内に手続きを履行しないときは、入学許可を取り消す。

10. 学費

入学を許可された者は、指定期内に次の学費等を納めなければならない。

指定期内に学費等を納めないときは、入学許可を取り消す。

- | | |
|-------------|----------|
| (1) 入学金 | 150,000円 |
| (2) 授業料 前期分 | 250,000円 |
| 後期分 | 250,000円 |

入学手続時最少納入額	
入学金	150,000円
授業料 前期分	250,000円
合計	400,000円

11. 入学辞退

入学手続きを行った者が、何らかの事由で入学を辞退する場合の申出期限は、平成30年3月30日（金）までとする（締切日必着）。

入学を辞退する場合は、書面による「入学辞退届（本人の署名と捺印）」に「入学許可書」を添えて大学へ申し出ること。

平成30年3月30日（金）までに辞退の申し出があった者に限り、授業料前期分を返還する。なお、入学金については返還しない。

12. 奨学金等

- 神戸薬科大学大学院奨学生規程による奨学生制度（授業料相当額を給付）
- 日本学生支援機構大学院奨学生（貸与）

13. 教育訓練給付制度

昼夜開講大学院修了が対象。

14. 災害補償制度

- 財団法人日本国際教育支援協会の学生教育研究災害傷害保険に加入している（学部・大学院生全員）。保険料は、大学が全額負担している。
- 事故・災害に備えて、1日24時間を総合的に補償する学生総合共済がある（任意加入方式）。

15. 注意事項

- 出願前には、希望講座の主任と打ち合わせを済ませておくこと。
- 入学後も在職する場合は、大学院主幹と打ち合わせをする必要があるため、出願前に必ず入試部入試課まで問い合わせること。
- 一度提出した書類ならびに入学検定料及び入学辞退の申出期限以降に辞退した者の学費等は返還しない。
- 提出書類に虚偽の記載があった場合は、入学許可を取り消す。

出願等に関する問い合わせ先；神戸薬科大学 入試部入試課 〒658-8558 神戸市東灘区本山北町4-19-1 電話 078-441-7691（直通）

http://www.kobepharma-u.ac.jp/exam/applicant_graduate/（入試情報）

*大学院の詳しい内容につきましては本学ホームページをご覧ください。http://www.kobepharma-u.ac.jp/edrs/graduate_summary.html（大学院トップページ）

神戸薬科大学大学院薬学研究科の研究分野

薬科学専攻

薬化学講座

奥田 健介 教授

低分子有機化合物を用いて生命現象を解明することは、創薬研究に直結します。また、生物活性を持つ新規有用物質の探索を行うことも、新薬開発にとっては重要な方途です。このような観点のもと、「病態・生命機能解明のための機能性分子の創製」を介した創薬化学・ケミカルバイオロジーを指向した研究を、本講座では行っています。

医薬細胞生物学講座

土反 伸和 教授

植物由来の医薬品候補の化合物の安定供給を目指し、植物細胞での生物活性物質の生合成・蓄積の仕組みの研究、得られた知見の合成生物学への応用を目指しています。また、がんや認知症などの疾患に有効な天然薬物の探索と、その作用の仕組みについて、動物細胞を用いて研究しています。

薬品化学講座

上田 昌史 准教授

合成医薬品の重要性から、本講座では医薬品の創製を目標とした有機合成化学の研究を行っています。医薬品のリード化合物になり得る強力な生物活性を有する新規化合物の合成、および新規化合物の合成に必要な新規反応の開発研究を行っています。

生命有機化学講座

和田 昭盛 教授 山野由美子 准教授

受容体は生命現象において非常に重要な機能を担っていることが明らかになっています。受容体の機能を解明するための鍵化合物を合成する生物有機化学と、その成果を創薬へとつなげるための基礎的な研究を展開しています。

薬品物理化学講座

向 高弘 教授

物理化学的手法を駆使し、生命現象、生体および病態の特性を解明し、その情報を基に、治療薬・診断薬の開発を行っています。①分子イメージングプローブの開発と画像診断への応用 ②がんの内用放射線治療薬剤の開発 ③生体膜を介する生理機能発現・疾患発生機構の分子論的解明

機能性分子化学講座

中山 尋量 教授

新しい機能を持ったリン酸塩や無機層状化合物を合成し、その分子カプセルとしての働きや新規吸着剤としての性質などを検討しています。また、生体に関連したリン酸化合物の新規合成とその特性評価についても検討しています。

生命分析化学講座

小林 典裕 教授

標的分子の高感度で正確な分析は薬学研究の基盤です。本講座では、抗原抗体反応を活用して痕跡量の生理活性物質を特異的に分析する方法を開発します。また、遺伝子操作で抗体の分子構造を改変して、より優れた分子認識能を示す変異抗体の創製にも挑戦します。

衛生化学講座

長谷川 潤 教授 中川 公恵 准教授
竹内 敦子 准教授

衛生化学は、健康増進、疾病予防、生活環境保護に関わる学問です。本講座では、TGF- β 、プロスタグランジン、脂溶性ビタミンなどの生体内情報伝達物質の生理作用と疾病への関連を明らかにし、私たちの健康を守るための基礎／応用研究を行っています。

微生物化学講座

小西 守周 教授

外来の生物種や異物を排除するために存在する免疫システムは、非常に繊細かつ複雑に制御されています。この免疫システムのメカニズムを明らかにする基礎研究、あるいは有用微生物構成成分を用いた免疫療法に関する研究を行っています。

生化学講座

北川 裕之 教授

遺伝病、がん、アルツハイマー、リウマチ、感染症などの発症に糖鎖の構造や代謝の異常が関与します。糖鎖の異常に関わる遺伝子や酵素を分子、細胞、個体レベルで総合的に研究し、病因解明、診断法の開発、糖鎖による創薬と治療法の開発を目標に活発に研究しています。

病態生化学講座

加藤 郁夫 教授

食欲は、摂食制御中枢である視床下部と摂食活動やエネルギー代謝を担う末梢臓器間のクロストークにより複雑かつ巧妙に調節されており、その破綻が肥満や痩せの原因となっています。本講座では、摂食障害を中心に、展開研究の立場から食欲調節ホルモンと病態との関連を解析し、摂食関連疾患のための創薬研究へと発展させて行きます。

薬剤学講座

岩川 精吾 教授[※]

薬物相互作用や薬物動態の変動要因の解析、エマルジョンを用いた薬物の体内動態制御法の開発や培養細胞を用いたがんの薬物治療に関する研究を行っています。また有効で安全な薬物治療のための薬剤師としての薬学的アプローチについても検討しています。

薬理学講座

小山 豊 教授 八巻 耕也 准教授

薬理学講座では脳損傷時の神経系の保護・再生を促す薬物の開発を目指し、脳挫傷や脳卒中後に生じるアストログリアの機能変化の解析と、その脳機能改善薬の標的としての意義の解明を行っています。また、食物アレルギー・アナフィラキシーショックの誘導機序の解析と、モノクローナル抗体・低分子化合物を用いたこれらの疾患の予防法および身体・精神神経症状改善薬の開発に関する研究を行っています。

製剤学講座

坂根 稔康 教授 寺岡 麗子 准教授[※]

難溶性薬物の溶解と生体膜透過性・透過機構に関する研究、光老化防御を目的としたポリフェノールの皮膚へのデリバリーに関する研究、軟膏剤とクリーム剤の混合に伴う物性変化と経皮吸収性に関する研究、薬物の特性をふまえた製剤設計法の開発、製剤の品質特性の評価に関する研究を行っています。

臨床薬学講座

江本 憲昭 教授 池田 宏二 准教授

循環器疾患を対象としたトランスレーショナルリサーチを行っています。特に血管生物学を中心に、その成果が臨床医薬学に直結できる生命科学研究を目指しています。

医療薬学講座

力武 良行 教授 佐々木直人 准教授

認知症、心疾患、動脈硬化、がんを対象に、発症・進展のメカニズムの解明や、効率的な診断・治療法の開発に資する基礎的研究を行っています。また、医療現場における薬物治療に関する臨床薬学研究も行っています。

* 各分野等の指導教員及び研究内容は、平成29年12月1日現在のものである。

※…在学期間中及び在学期間前に退職（予定）となる教員（在学期間：平成30年4月～平成32年3月）
平成30年3月末退職：岩川 精吾 教授（薬剤学）、寺岡 麗子 准教授（製剤学）